【共　通】

# 平成三十一年度　入学考査問題　国語（専願）　加茂暁星高等学校

＊　注意　これは問題用紙です。解答用紙は別にあります。解答は必ず解答用紙に書きなさい。
終了時間がきたら、解答用紙を裏返しにして室外へ出なさい。

〔問題一〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係で問題文は掲載できません

（永江　朗『インタビュー術！』より）

問一、〰〰a～eの漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、A にあてはまる漢字二字の熟語を、本文中から抜き出しなさい。

問三、B にあてはまるひらがな二字を答えなさい。

問四、――①「なに」と「なぜ」のまわりを回っている」とは、具体的にどのようなことか。本文中の語句を使って、説明しなさい。

問五、――②「それ」の指すものを、本文中から十字程度で抜き出しなさい。（句読点などを含む）

問六、――③「醍醐味（だいごみ）」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

ア　一番大切な部分　　イ　危険な部分　　ウ　本当の不思議さ　　エ　本当の面白さ

問七、――④「アドリブ、即興演奏のパート」は比喩表現である。具体的には何をさすか。本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問八、――⑤「ここで問われる」のはなぜか。解答欄にあてはまる形で、本文中から三〇字～四〇字で抜き出しなさい。

問九、――⑥「こいつ」とは、誰のことか。次から選び、記号で答えなさい。

ア　話し手　　イ　書き手　　ウ　聞き手　　エ　相手

問十、――⑦「連歌に近いかもしれない」とは、どのような状況を表したものか。次から選び、記号で答えなさい。

ア　お互いの言葉を受け止めて話をつなげていく状況　　イ　お互いの言葉に刺激されて考えを深めていく状況

ウ　お互いの言葉を聞きながら自分の話を進めていく状況　　エ　お互いの言葉に重ねるように言葉を発していく状況

問十一、次の一文は、本文のどこにあてはまるか。〈Ⅰ〉～〈Ⅳ〉から選び、記号で答えなさい。

**話し手の言葉にその場で反応しなければならない。**

〔問題二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

# 著作権の関係で問題文は掲載できません

（星 新一『宿命』より）

問一、〰〰〰a～eの漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、A～Dに当てはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア もし　イ ひときわ　ウ ひたすら　エ やっと

問三、――①「それ」とは何のことか。本文中から三字で抜き出しなさい。

問四、――②「みな」とは誰のことか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問五、――③「その星」とはどの星か。本文中から二字と十四字で抜き出しなさい。

問六、――④「気をもませて」の意味として最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 気を緩めないよう注意させて　イ 無防備な状態にさせて

ウ あれこれと心配して悩ませて　エ 気をまぎらわせて

問七、――⑤「もともと、そういうものなのだから」とあるが、この作品ではロボットをどのようなものとして描いているか。説明しなさい。

〔問題三〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本は季節の移り変わりがはっきりしている。美しい日本と言われているのは、四季があるからといっても①過言ではない。四季を感じることができない地域はたくさんある。②常夏のハワイもある。極寒のシベリアもある。

③さて、この四季の変わり目にもう一つの季節があることを知っているだろうか。「土用」である。「土用丑（うし）の日」とか「土用波」「土用干し」など聞いたことがあるだろう。四季ではなく五季だという見方もある。

季節だけでなく文字にも言える。日本人が四文字よりも五文字・七文字に親しみを感じているのは、Aや、Bを見れば明らかである。いや、日本人だけではない。中国でも④唐詩の絶句や律詩にも五言や七言がある。

時代の流れで消えていったものもあれば、⑤時のふるいにかかってもなお受け継がれる精神もあるのだ。その根底には、C数を重用するという「五行」の精神が流れているのであろう。

問一、A・Bに入る適語を次から選び、記号で答えなさい。　ア 小説　イ 和歌　ウ 随筆　エ 戯曲　オ 俳句

問二、Cに入る漢字を次から選び、記号で答えなさい。　ア 偶　イ 未知　ウ 虚　エ 奇

問三、――①の意味を次から選び、記号で答えなさい。

ア 言い過ぎだ　イ 言い過ぎではない　ウ 間違いだ　エ 言葉が足りない

問四、――③の文章のⓐ～ⓒの品詞を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

「さて、この四季のⓐ変わり目にもう一つの季節がⓑあることを知っているⓒだろうか。」

ア 名詞　イ 動詞　ウ 形容詞　エ 副詞　オ 助動詞　カ 助詞

問五、――②・⑤の表現法を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 比喩法　イ 擬人法　ウ 対句法　エ 倒置法

問六、――④に属する作品を次から選び、記号で答えなさい。

ア 『故郷』魯迅　イ 『春望』杜甫　ウ 『蜜柑』芥川龍之介　エ 『雪国』川端康成